

千高教研数第16号

令和7年9月24日

各高等学校長 様

千葉県高等学校教育研究会
数学部会部会長 相浦 敦
(公印省略)

令和7年度千葉県高等学校教育研究会数学部会秋季研究大会の実施
について(依頼)

このことについて、下記のとおり開催いたします。
つきましては、貴校関係職員の派遣について格別の御高配をお願い申し上げます。

記

1	主 催	千葉県高等学校教育研究会数学部会
2	後 援	千葉県教育委員会
3	期 日	令和7年11月11日(火)
4	会 場	千葉県立千葉工業高等学校 (千葉市中央区今井町1478)
5	日 程	受 付 9:00～ 9:40 公開授業(2限) 9:45～10:35 (※情報と機械の実習授業の見学になります。) 開会・挨拶・諸連絡 10:50～11:10 研究発表① 11:15～11:45 研究発表② 11:50～12:20 昼食・休憩 12:20～13:20 部会誌紹介 13:20～13:25 研究発表③ 13:25～13:55 講 演 14:00～15:30 研 究 協 議 15:30～15:50 閉 会 15:50

6 内 容

(1) 研究発表

- ① 「令和7年度計算力テスト実施結果について」
千葉県立沼南高等学校 教諭 稲岡 諒彦
- ② 「令和7年度大学の入試問題に関する研究」
千葉県立流山南高等学校 教諭 森 光彬
- ③ 「タブレット活用の授業実践報告(仮題)」
千葉県立千城台高等学校 教諭 松井 洋平

(2) 講 演

演 題 「数学における探究学習」
講 師 上智大学 非常勤講師 佐藤 一 先生

7 参 加 費

1名あたり 2,000円(当日受付にてお支払いください)

8 その他

(1) 回答方法

下記URLまたはQRコードのリンクから回答用Web サイト (Forms) を開き、必要事項を入力したうえで令和7年10月22日 (水) までに回答を送信してください。数学部会 Web サイト「事務局」ページに、各種案内とともにリンクを用意してあります。

研究大会に**出席できない場合も必ず回答してください。**

回答用Web サイト (Forms)

<https://forms.office.com/r/fxc38r1imQ>



- (2) 当日、本年度の部会誌 (α - ω 第63号) を配付しますので、部会加盟校は参加して下さるようお願いいたします。当日参加された方にお渡しします。

上記(1)の回答方法にて、数学の教員数(管理職を含み、非常勤講師を除く)を事前にお知らせください。

参加されない学校については、合わせて受け取り方法を回答してください。
また、着払いの宅配便を御希望された学校は、受け取りに際して配送料が必要になりますので、事前に事務室等との連絡をお願いいたします。宅配便に関しては大会後、数日で到着する予定です。

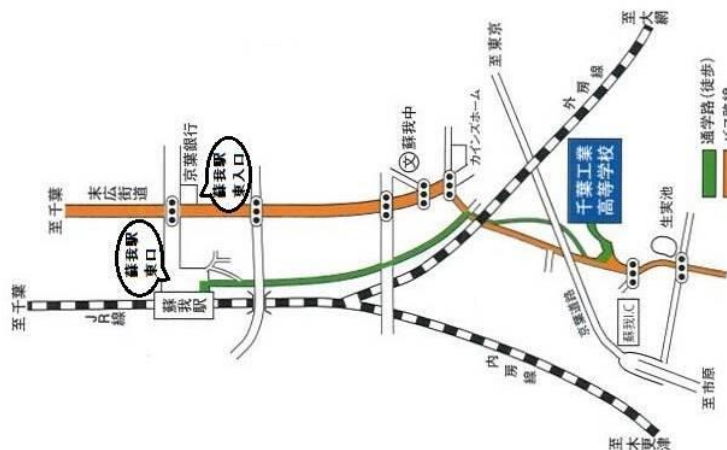
- (3) 大会が中止となる場合には、数学部会 Web サイト
<http://math.sakura.ne.jp/> にてお知らせいたします。

会場校への問い合わせはしないでください。



部会 HP 用

- (4) **昼食を注文することはできません。**昼食は各自で用意し、**ゴミはお持ち帰り**ください。
(5) **会場校には駐車場がありません。**公共の交通機関を御利用ください。
(6) 案内図



- (7) 問合せ先

千葉県立関宿高等学校 石田俊介

TEL: 04-7198-5006

メール: s.ishd20@chiba-c.ed.jp

部会では、研究委員、編集委員、研究大会の発表者、部会誌の原稿を募集しています。希望される方は、下記の委員まで御連絡ください。

- | | | | | |
|-----------|-----|-------|--------------|--------|
| ・ 研究大会の発表 | ・・・ | 研究委員長 | 千葉県立船橋高等学校 | 長内 恵里奈 |
| ・ 部会誌の原稿 | ・・・ | 編集委員長 | 習志野市立習志野高等学校 | 小山 博之 |

演 題 「数学における探究学習」

講 師 上智大学 非常勤講師 佐藤 一 先生

講師プロフィール

1956 年生まれ 出身 静岡県

大学時代を千葉県で過ごす。
市川→船橋→千葉 と転居。
千葉は、私の揺籃の地。

大学院修了（修士）後、
静岡県の高校教員となり、
34 年間を過ごす。
数学教育を考える転機を経験する。

日本数学教育学会の全国大会に参加し始める。
日本数学教育学会研究部意識調査委員会の
メンバーとなる。

2015 年-2025 年 明治大学総合数理学部特任准教授
2025 年- 上智大学非常勤講師
数学教育実践研究会会長



講演の概要

「探究学習」あるいは「探究的な学習」が高校の学習の重要なキーワードになりました。探究（的な）学習の方法については、「課題の設定-情報の収集-整理・分析-まとめ・表現」→「次の段階」→…（スパイラル）…と表現されています。しかし、今なぜ「探究」が必要なのでしょう。これは指導する側には重要な事柄です。

数学における探究は、数学自身と「諸科学の言葉」としての数学に大きく分けられます。数学以外の分野では、毎年高校生も理解出来る多くの新たな知見が生まれます。ですから諸科学で働く数学を探究することはとても意義があります。一方、数学における探究を考えると、高校までの数学の中では新しい知見は生まれにくいと考えられます。しかし、探究を数学の中ですることは、生徒が数学を真に自分のものにするという意義を持ちます。それぞれに具体例を示します。一緒に探究（的な）学習について考えましょう。